

20033

当院における iFR の有用性

【背景】2018 年当院では 303 件の侵襲的心筋虚血評価を行っており、FFR や iFR は虚血評価において重要なモダリティである。

【目的】2015 年 11 月から 2018 年 3 月までに iFR と FFR を同時に施行した患者の 1 年後の予後と造影検査の結果を調査した。

【方法】対象期間に iFR と FFR を同時に施行し Defer した症例の 1 年後の死亡数と血行再建の有無を調査した。

【結果】対象は 99 症例で、このうち 1 年以内の死亡は肺炎で死亡した 1 例で緊急血行再建を行った症例は認めなかった。フォローアップ CAG を行った症例は 50 例でこのうち 9 例が 1 年以内に血行再建を行っていた。9 例の内訳は FFR と iFR 双方が陰性であった患者が 6 例、FFR 陰性で iFR 陽性であった患者が 3 例であった。また、FFR 陽性であった症例と iFR 陽性であった症例、FFR 陰性であった症例と iFR 陰性であった症例の間で血行再建を行った症例数に有意差があるか調査したが、有意差は認めなかった。

【考察】今回の検討では、緊急血行再建を行った症例や、心血管系のイベントで死亡した症例は認めずその後のフォローでの血行再建を行った症例数も有意差は認めなかった。このことから iFR だけでも虚血評価が可能であることが示唆された。

【結語】iFR は虚血評価において有用なモダリティであると示唆された。